

税制優遇制度を 使いこなす

NISA ▪ iDeCo ▪

生命保険料控除の基礎知識



Purpose

- 3制度の「何が得なのか」を共通言語で説明で
きるようする
- 向き不向き（目的・期限・使い勝手）を整理す

結論：3制度は「得するポイント」が違う



NISA

メリット

運用益（売却益・配当等）が
非課税

資産形成向き

研修ポイント



iDeCo

メリット

掛け金全額控除 + 運用益非課税 + 受取時控除

老後資金向き

●

生命保険料控除

メリット

支払保険料の一部を
所得控除

保障×税負担軽減

「投資の非課税」 = NISA
「所得控除が強い」 = iDeCo
「保障×控除」 = 生命保険料控除

NISAの基本（2024年～の新NISA）

NISAの主なポイント

- 制度（口座開設期間）が 恒久化
- 非課税保有期間が 無期限
- 枠は2つ：
つみたて投資枠 ／ 成長投資枠



研修ポイント

「長期・積立・分散」の王道は
つみたて投資枠

個別株等も含めて広く使うのが
成長投資枠

（対象外商品もある）

NISA：年間投資枠と生涯枠（重要数字）

年間投資枠

つみたて投資枠

120万円

成長投資枠

240万円

合計

360万円

非課税保有限度額（生涯枠）

合計（簿価残高）

1,800万円

うち成長投資枠：1,200万円

補足（誤解防止）

売却すると、売却した簿価分の枠が翌年以降に復活します

iDeCoの基本：何の制度？

iDeCo（個人型確定拠出年金）

老後資金を自分で積み立てて運用し、
原則60歳以降に受け取る仕組み



税制メリット（3段階）

1. 拠出時

掛金は
全額所得控除

（小規模企業共済等掛金控除）

2. 運用時

運用益は
非課税

（通常は約20%課税が0に）

3. 納付時

受取時も
各種控除あり

年金：公的年金等控除
一時金：退職所得控除



iDeCo：掛け金上限（2024年12月～の改正点）

2024年12月からの 主なポイント

企業年金（DB・共済等）加入者の
iDeCo掛け金上限が大幅に引上げられました。



月額 1.2万円 → **月額 2.0万円**

注意点（超重要）

iDeCo掛け金と企業年金等の掛け金相当額の合計が
月額5.5万円を超えない範囲で決まるため、
「いつでも2万円にできる」とは限りません。

iDeCoの注意点：使い勝手（NISAとの違い）

NISAと比べたときの注意

原則60歳まで引き出し不可

流動性が低く、急な出費に対応できない

生活防衛資金が薄い人には不向き

老後資金の目的に合う一方、手元の資金が不足するリスクがある



研修での言い回し例

まず生活費〇か月分の備え



その上で長期の積立

制度の優劣ではなく
“順番”的話にする

生命保険料控除：3区分と控除の考え方

生命保険料控除（所得税）は3区分

01 一般生命保険料控除

02 介護医療保険料控除

03 個人年金保険料控除



新契約（平成24年1月1日以後）の控除額

年間払込8万円超なら



控除額は一律

4万円

（その区分の上限）

生命保険料控除：全体の上限（所得税）

控除額の合計上限（所得税）

$$\begin{array}{r} 4\text{万円} \\ \text{一般} \end{array} + \begin{array}{r} 4\text{万円} \\ \text{介護医療} \end{array} + \begin{array}{r} 4\text{万円} \\ \text{個人年金} \end{array} = \begin{array}{r} 12\text{万円} \\ \text{最大控除額} \end{array}$$

研修ポイント

- * 払った保険料がそのまま12万円控除される
- 計算式で出た 控除額の合計 が最大12万円

実務導線



年末調整／確定申告での
「控除証明書」が必須

使い分け早見：目的別おすすめの考え方



目的と期間に合わせて
最適な制度を選ぶ

10年以内に使うお金

(教育費の一部、住宅頭金など)

→ **流動性重視** (iDeCoは“引き出し制約”に注意)

老後資金

(長期で積立)

→ **iDeCo** (所得控除メリットが効きやすい)

長期の資産形成

(いつでも売却できる柔軟性も欲しい)

→ **NISA** (非課税保有期間は無期限、生涯枠あり)

保障を持ちながら税負担軽減

→ **生命保険料控除** (ただし控除には上限)

面談の型：3つの質問で“押し売り”を防ぐ

顧客ニーズを引き出す3つの質問

Q1 目的は？

いつ・何のために使うお金ですか

Q2 優先順位は？

生活防衛資金は確保できていますか

Q3 制約は？

60歳まで引き出せない積立は
問題ありませんか



トーク例（研修用）

“制度の損得より、
目的に合うかが最優先です

“NISAとiDeCoは、税の得ポイントと使い勝手が
違います

引用元一覧

金融庁 / NISA

- 金融庁 NISA特設サイト「NISAを知る」
- 金融庁「早わかり（NISAガイドブックPDF）」
- 金融庁「NISAを利用する皆さまへ（スライドPDF）」

国税庁 / 生命保険料控除

- 国税庁「No.1140 生命保険料控除」
- 国税庁「保険と税（生命保険料控除額・12万円上限）」
- 国税庁「生命保険料控除の限度額計算（制度改正の整理）」

厚生労働省・政府広報 / iDeCo

- 政府広報オンライン「iDeCo 2024年12月法改正のポイント」
- 厚生労働省「iDeCoの概要（税制：全額所得控除／受給時控除等）」